

「研修会等名称」

ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ

場所：東京大学本郷キャンパス・福武ラーニングシアター

期間：2025年1月26日 13半～17時

1. 研修の内容

プログラムはおおむね以下の通り。

- ・開会あいさつ：蓑輪頤量（東京大学大学院人文社会系研究科教授/U-PARL 部門長）
- ・Keynote Speech 1 大向一輝（東京大学大学院人文社会系研究科准教授/U-PARL 兼務教員） デジタルアーカイブと AI: 「提供者」と「利用者」の関係を再考するために
- ・「育てるアーカイブ」 Report1 太田絵里奈 (U-PARL 特任助教) / 阿達藍留（東京大学大学院人文社会系研究科）
アラビア語写本アーカイブの再構築：研究者コミュニティによる協働型データベースの展望
- ・「育てるアーカイブ」 Report2 澁谷秋 (U-PARL 特任研究員) 写真資料のアーカイブ化とその活用：田中武雄氏旧蔵写真等資料
- ・Discussion モデレーター：渡邊英徳（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授/U-PARL 兼務教員）

今回のシンポジウムでとりわけ有益であったのは以下の3つであった。

- ・「デジタルアーカイブと AI: 「提供者」と「利用者」の関係を再考するために」ではアーカイブを情報所有者が勝手に構築すれば済むのではなく、利用者との役割分担と協働の重要性を再認識するとともに、アーカイブに AI 技術を導入することでより使いやすく有効なアーカイブにできることが説明された。連綿字の AI 解読などは直ちに利用できる。
- ・「育てるアーカイブ：アラビア語写本アーカイブの再構築：研究者コミュニティによる協働型データベースの展望」では東京大学が所蔵しすでに一応デジタル画像化されているダイヴァー・コレクションを、新たな仕組みで構築しなおすことにより利用しやすく、かつ新たな視点をも提供しうる仕組みとする道程が開示された。
- ・「育てるアーカイブ：写真資料のアーカイブ化とその活用：田中武雄氏旧蔵写真等資料」では、著作権や肖像権の関係から一般公開が見送られがちな写真資料を、合法的に可能な限り公開するための方策と道程が示された。

いずれの報告でも、典型的な文字データリスト処理だけに依存するアーカイブ思想を超えることでアーカイブの新たな活用が展開されることが、具体例をもって提示された。

また今回のシンポジウムが、東京大学附属図書館アジア研究図書館の主催であったことからわかるように、アジアの主に紙に記録されたデータのアーカイブ化の話であり、経済数値や科学的定量分析などと違う、文科系の電子情報技術利用に特化した発表であった点もとりわけ有意義であった。

2. 研修の成果

- ・「デジタルアーカイブと AI: 「提供者」と「利用者」の関係を再考するために」学部・大学院を問わず学生が確固たる構想なく AI データを利用しようとする事への反省と、確保すべき基盤が了解された。発表者大向一輝氏は Cinii の構想設計者であり、有効なデータ提示のための構築構想の具体を Cinii に即して聞いたのは有意義であった。また構想が明確になれば、技術利用による省力化が、まま可能になるとの報告も注目された。電子的アーカイブということの構築思想を考えるうえで極めて有効な示唆を得た。
- ・「育てるアーカイブ：アラビア語写本アーカイブの再構築：研究者コミュニティによる協働型データベースの展望」すでに一応デジタルが増加されているアラビア語写本ダイヴァー・コレクションの再活用の報告であったが、愛知大学でも ICCS や東亜同文書院センターが構築した様々なデータが有効にアーカイブとして活用されないままほぼ死蔵状態にあり、それらの学内データの再出発のための示唆を得た。そのさい「デジタルアーカイブと AI: 「提供者」と「利用者」」でも語られた利用者視点を有効にアーカイブに導入・反映させる仕組みの重要性を実感させられた。この仕組みを積極的に確実に取り込むことにより、ICCS や東亜同文書院センター保有のデータを研究に役立てやすい「アーカイブ」として再出発させる可能性を感じた。もしそのように動くのであれば、東京大学 U-Parl の協力も得られそうである。
- ・「育てるアーカイブ：写真資料のアーカイブ化とその活用：田中武雄氏旧蔵写真等資料」学部・大学院を問わず学生が愛知大学所有の写真・絵葉書資料を論文で利用したいと構想することがままあるが、著作権や肖像権の関係から利用に制限を感じている。しかし今回の報告により、デジタルアーカイブ学会の指針を利用することで利用に筋道が開かれることが理解された。同学会の指針は今後広く受け入れられ定着してゆくと考えられる。

3. 授業への研修成果の反映状況

上記いずれの研修成果も、現時点では授業改善に反映できていない。今回の研修成果を得て、愛知大学所蔵データを、私自身の授業や論文作成のみならず、学生の研究・論文執筆活動への指導に役立てる方策を得たと感じる。2025 年度からでも、愛知大学所蔵データを単なる「データベース」から脱皮して、有効かつ使いやすい「アーカイブ」へ作り変える授業を展開したい。

学部長	学習・教育支援センター委員長	学習・教育支援センター委員会	名古屋教務課長	係